

激震火襲神田萬世驛慘狀之眞景

(帝大震災畫報)



大正十二年九月一日午前十一時五十八分關東地方未嘗有の大震災起り地は龜裂を生じ家屋倒壊し東京市内八十餘箇所より火災起り一面火の海と化し水道も断水し風勢強烈にして消防に漸く負傷者も有見候も子息夫婦の道終人となり埋れ九逃場と云ふ其慘状目も當りず焼死家屋三十六萬餘戸死者十五萬餘人罹者三十五萬餘人四十万と算す殊に避難者も至安全地に逃れし人も各處學堂交通社地の為其多數の廣場避難し無數の放風猛火の渦を巻く群集の路上に墜下し持事も荷物一時を奪はれ為最傷者哉此の如き甚大の場所なり

焼死戸數三十六萬六千二百六十三戸 焼死区内芝薨町神田日本橋京橋赤坂下谷浅草本所深川 大島町一軒  
 大正十二年九月五日印刷  
 發行所 全所  
 浦野次郎  
 浦野次郎  
 浦野次郎

